

思う。

マラリアゲノムプロジェクトは、マラリアがマラリアであるための構造様式に到達する情報を与えた。その鍵は、*mdr*を始めとしてヒトが保有する多くの遺伝子を共有していることにあるのだが、それでは何故マラリアはヒトが“うまい”と感じるのであろうか。マラリア原虫はヒトにのみ感染するのではないが、熱帯熱マラリア原虫を用いて、この生物がヒトへ到る道を次回に紹介する。

〔文献〕 1) VIDAL, *et al.* Cell 73, 469-, 1993. 2) TRAGER and JENSEN Science 193, 673-, 1976. 3) BZIK, *et al.* Proc. Natl. Acad. Sci. USA 84, 8360 -, 1987. 4) TANAKA, *et al.* Mol. Biochem. Parasitol. 39, 127-, 1990. 5) TANAKA, *et al.* Mol. Biochem. Parasitol. 42, 83-, 1990. 6) RUBIO, *et al.* Genomics 26, 192-, 1995. 7) FOOTE, *et al.* Cell 57, 921-, 1989

図書紹介.....

◎東南アジアで普通に植えられている樹木—野外図鑑— (Trees Commonly Cultivated in Southeast Asia—An Illustrated Field Guide—Michael JENSEN, 1995, FAO Regional Office for Asia and the Pacific (RAP), Maliwan Mansion, Phra Atit Rd., Bangkok 10200, Thailand, 229 pp. 郵送料こみ 20 US\$/冊, 20 部以上まとめれば 18 US\$/冊)

著者は、デンマークで森林生態学を専攻した方で、バンコックのFAOアジア太平洋地域事務所に準専門官として勤務した2年間に、東南アジアで普通に植えられている樹木についての情報を精力的に集積するとともに、それらの写真をとったり、挿絵の作成にもつとめた。これらを取りまとめたのが本書である。およそ110種をI針葉樹類とモクマオウ類、II竹類、IIIヤシ類とバナナ類、IV広葉樹類の4群に分け、まず独特の検索表に整理した上で、樹種ごとに学名(科名)・シノニム・一般名・記載・用途・生態・分布(ほぼ分布図つき)・参考文献を1ページに手際よく整理し、反対側のページにはカラー写真と挿絵を組み合わせ、葉・花・果実・樹皮などを示している。ほとんどの樹種にあるシルエットの樹形はユニークな試みである。著者の上司で、まえがきを書かれている榎尾氏(Mr. M. KASHIO, Regional Forest Resources Officer)から恵送されて刊行を知ったが、東南アジアで樹木を扱う方々はもちろんとして、熱帯樹木に関わりをもつ方々にとって格好のハンドブックである。なお入手されたい方は、上記金額のBank Draftを同封して同氏に依頼して下さい。(浅川澄彦)